



5月19日

## 中学生が職場体験に訪れました



平成27年5月19日、仙台市内の中学1年生9名が職場体験に訪れました。

3日間の職場体験学習の一環として、仙台海岸出張所において植栽作業を実施したものです。

マサキ、シャリンバイ、トベラ、ヒサカキ、アキグミの低木5種類、250本の苗木を植えました。

当日は午前中の雨で実施が危ぶまれましたが、お昼前に雨も上がり、適度に湿った土の上での作業となりました。

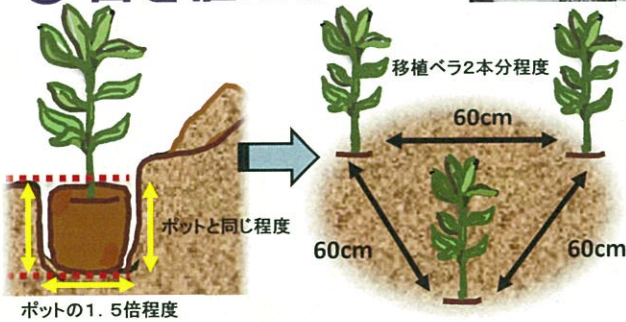


### 職場体験の様子

#### 植栽の作業手順

① 植栽前の水やり

② 苗を植える



※深さは浅くなったり深くなり過ぎないように注意！



③ワラを敷く

乾燥を防いだり雑草が生えるのを防ぐための作業

④縄を張る

ワラが風で飛ばされないための作業

⑤水まき



今回訪れた生徒さんたちは、東日本大震災からの復興などをきっかけに土木建設業界に興味をもったとのこと。「緑の防潮堤」の整備を進めるにあたり必要な植栽作業について、苗木を植える前の水やりから植えた後のワラ敷き、縄張り、水まきまでひとつひとつ体験してもらいました。慣れない作業は大変だったと思いますが、お互いに声をかけあいながら、最後まで協力して作業する頼もしい姿を見せてくれました。

これからの学習や将来を考えるうえで、良い経験になってくれれば私たちも嬉しく思います。

5月12日

# 「緑の防潮堤」植樹会を行いました

平成27年5月12日、岩沼市寺島において植樹会を行いました。

柴田農林高校の生徒さんをはじめとするボランティアの方々等、約270人が参加しました。

開催日まで晴天が続き、乾燥して固くなった土に皆さん苦労されていましたが、約4,300本の広葉樹の苗木を植えていただきました。今後は樹木の適応性、盛土の安定性など継続して観察していきます。

## 植樹会の様子



植樹する苗木  
使用するワラ

苗木を植える様子



ワラをバケツリレーする様子



植樹が終了した様子

## 緑の防潮堤



コンクリートで被覆された堤防の法面に盛土を行い植栽する、いわゆる「緑の防潮堤」は、樹林と盛土が一体となって堤防の洗堀や被覆工の流出を抑制する粘り強い構造の堤防です。

○東日本大震災では、堤防を越えた津波により、堤防が壊れ、背後地に甚大な被害が発生。

津波が堤防を越えた場合に、堤防が壊れるまでの時間を遅らせ、避難時間を稼ぐなどの減災効果を有する施設の整備が必要。

■平成26年8月の海岸法改正により、堤防と一体的に設置される減災機能を有する樹林（「緑の防潮堤」）など粘り強い構造の堤防等を海岸保全施設に位置付け。

